



大人の股関節と 赤ちゃんの股関節について

変形性股関節症という病気をご存知でしょうか。股関節（脚の付け根の関節）の痛みを生じる病気で、はじめは立ち上がりや歩きはじめに痛みが出ます。進行すると痛みが強くなり、場合によっては持続痛（常に痛むこと）があります。また、動きに関しては、関節の可動域（動かせる角度）が小さくなるため、足の爪切りがやりにくくなったり、靴下が履きにくくなったりします。

患者は女性が多く、平均50歳から症状が出ます。原因は後で説明する発育性股関節形成不全（かつては先天性股関節脱臼）など、子どもの時の病気や後遺症が約80%といわれています。

治療はまず負担を減らすことが重要なので、減量や生活習慣の改善が大切です。その上でよくならなければ、痛み止めなどの内服薬を使います。これらの保存治療でも症状が良くならない場合は、手術療法を考えます。

しかし、足の付け根が痛くなる原因は股関節だけではなく、腰の神経が原因のこともあります。気になる症状がある場合は一度受診をおすすめします。

そして、この変形性股関節症の原因、発達性股関節形成不全、かつては先天性股関節脱臼といわれていた病気のお話です。小さい子がいらっしゃるご両親は3か月健診や整形外科での検診で、整形外科医が赤ちゃんの脚をぐねぐね開いたりしているのを見たことがあると思

います。あの検診はこの発達性股関節形成不全を早期発見するための検診です。

股関節が脱臼（関節がはずれること）したまま成長すると、骨盤の骨の臼蓋といわれる股関節を受ける側のかぶりがきちんと作られず、かぶりが浅くなります。重度であれば、子どものころから引きずったような歩き方や片方に偏った歩き方となります。軽度であっても、大人になってから上記の変形性股関節症になる危険性が高いです。

この病気は女兒が多く、骨盤位（逆子）もこの病気の原因の1つではありますが、重要なことは赤ちゃんの脚を伸ばしたままにしないことです。赤ちゃんは脚が開いている姿勢が自然な姿勢です。昔は脚を広げにくいおむつカバーなども売られていましたが、この病気の危険性があり、現在はあまり売られていないかと思えます。また、前や後ろにだっこする通常のだっこひもは股関節が開くので問題ありませんが、スリングと呼ばれるななめがけのだっこひもは股関節が閉じられた状態なので股関節には良くありません。子どもを寝かしつける際にバスタオルなどでくるむこともあると思います。その際も脚はくるまずに上半身のみをくるむようにして、股関節の動きを妨げないようにしましょう。

発達性股関節形成不全の症状は両足の長さの差や股関節の開き具合の左右差、両脚のしわの差などです。実はしわの差はこの病気ではなくてもよくあるのですが、何か気になる点がありましたら当院またはお近くの整形外科を受診してください。



良いだっこひも（股関節が開いている）



スリング（よくない例）